

さて、先月は自分の仕事の紹介で終わってしまいましたね。どうも僕の文章は、だらだらと回り道が多くていけません。今月はこのコーナーで書いていく内容みたいなものをお話ししようと思います。この先どうなるのか解らないと、読んでくださるみなさんも不安でしょうからね。

今回の企画をABさんに依頼されてから、いろいろと悩んだあげく、肥育という仕事の流れに沿ったお話しを書きたいと思いました。肥育という仕事の流れを見直すと、まず素牛導入からはじまり前期、中期、後期(仕上げ)と進みますが、もう少し細かく分けると月齢ごとに仕事の意味や中身も変わっていることに気づくはずですが、せっかくだから、この細かく分けた仕事について、毎月仕事の意味やそのときの牛さんの状態、その時期の作業に合わせて牛さんの身体の仕組みのお話し、などをお話ししていけたら、と考えています。いま考えているのは下のようなお話しの流れです。

- 1 , 肥育という仕事の流れの概論
- 2 , 素牛の選び方
- 3 , 粗飼料による腹作りとは？
- 4 , 濃厚飼料による腹作りとは？
- 5 , 第一胃のはたらき
- 6 , ロース・バラ・カブリの発達のために
- 7 , サシを入れる！
- 8 , 皮下脂肪のお話
- 9 , 肉色のお話し
- 10 , 脂肪質のお話し
- 11 , 枝肉から解ること

この大まかな流れに沿ってお話ししようと思いますが、各項目はもしかしたら2~3回に分けないとお話しきれない場合もあるともいます。たとえば一口に「5, 第一胃のはたらき」と言っても、第一胃に夜発酵消化は牛さんの最大の特徴ですし、牛さんはロースやバラなどの筋肉も、それからサシなどの脂肪も、みーんなこの第一胃の発酵消化で作ります。また牛さんの病気の原因の大半は、この第一胃の発酵異常に原因があるのです。意外なことに尿石症なんかも第一胃の発酵異常が原因なのです。そういう大切な臓器のお話しですから、おそらく3回程度に分けてお話しすることになると思うんです。(水増しして連載を長引かせようとしてんだらうって？ ドキッ)

また、サシのこともみなさんの興味を中心でしょうし、サシは大まかに2段階で入るので2回に分けてお話しするかもしれません。でも僕の文章はこういう風だから解りませんけどね。それに、いつか物書きのあこがれの「先生急病にて今月号はお休みです」なんてのもやってみたいし(笑)。あ、A



Bさんに怒られました、テレパシーで。ま、いいか。

それから、もしこのコーナー当てに質問とかいただけたら、途中途中で答えしていくつもりです。あ、どんな女性が好きですか？とかの質問はダメですよ。たいてい好きだから。じゃなくって、牛さん関係の質問だけにしてくださいね。

さて、流れのお話が終わったところで、せっかくですから今日は、僕が目で見たい「成績のいい農場」に共通する特徴についてお話ししてみましようかね。少し耳が痛いかもしれませんが、参考になることもあると思いますよ。

まず成績のよい農場の特徴として「牛舎がきれい」ということが挙げられます。成績のよい農場は牛舎が清潔だし通路などもこまめに掃いてきれいにしてあります。これはどういう効果があるかというと、天井にホコリがあると、血便の原因であるクロストリジウムやサルモネラなんていった危険な細菌の巣になります。これらの菌を持ち込むのは鳥さんやネズミさんです。彼らが天井の梁にウンチをすると、その中にいるばい菌がウンチの乾燥とともに粉末のホコリとなって蜘蛛の巣に引っかかるのです。それらが毎日牛さんの上から降り注ぐわけですから危険この上ありません。また通路に飼料がこぼれていると、ハエや鳥、ネズミの餌になって、こういう危険な衛生害虫や害獣が増える引き金になります。また、僕たち現場の獣医さんが見る度にがっかりさせられるのが、いつ渡した分か解らない薬が置きっぱなしになっている姿ですが、成績のよい農場ではこういったものもないので、よけいに牛舎がきれいに見えるのかもしれませんが。このほかにも、飼槽に鳥の糞があると下痢や血便の危険が増えますし、通路や軒下に余分な物があると通風が悪くなります。牛舎をきれいにしておくということは、牛さんの衛生や快適さにとって、よい効果がいっぱいなんです。

つぎに飼料の給与の面ですが、毎食の飼料給与量を把握している、飼料給与時間が一定している、飼槽の掃き寄せをこまめにしている(6回以上)、飼料給与時にどの牛からよってくるか把握している、飼料の切り替え時は2週間ほどかける、などが挙げられます。肥育牛は、いかに月齢に応じ、肥育体系(短期肥育か理想肥育か、など)に応じて適正に飼料給与をするかが勝負です。毎食の給与量を知らなければお話しになりません。1回計っておくだけでもかなりの目安になるのです。また、牛さんにとって第一胃の発酵の安定は、健康と生産性の要ですが、飼料給与時間が一定しないと発酵が安定しません。飽食にはいると飼槽にはたいてい残飼が入っていますが、こまめに掃き寄せてやるとそのたびに牛さんは残りの餌を食い込んでくれます。しっかり食い込ませるには、こまめな飼槽の掃き寄せが欠かせません。それから、餌を入れたときにどの牛から寄ってくるかを知っておくことは、健康状態、食欲のある牛とない牛、群れの順位、などの把握に重要です。

また、牛さんは濃厚飼料も粗飼料も切り替えるとストレスになり第一胃の発酵も乱れます。このため餌の切り替えには2週間程度かけてあげた方が無理なく切り替えられるのです。

あれっ？とか言ったらもうページの終了ですね。成績のよい農場のまねをするのは改善の早道なので、来月もこの続きから行きましよう。

